SVS-38ショートツール用治具



軸が真っ直ぐな木彫り用 の刃物

真っ直ぐなガウジ

真っ直ぐなVツール

短い木工用のみ

平の木彫り用のみ

電動木彫機用の交換式 ガウジやVツール

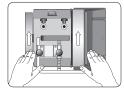


SVS-38 はSVS-32の改良版になります。刃幅が少し 広いものを研ぐことができますが、その他機能は SVS-32と変わりません。

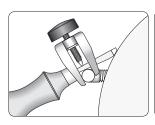
SVS-38: 幅38mm以下 SVS-32: 幅32mm以下

刃先角度20°で全長45mm以上

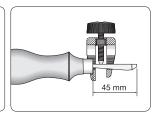
本体の位置



砥石で研ぐ時の方向: 刃先から離れて







構造

この特許品の治具は、木彫り用の短い刃物、叩きのみ、電動木彫機用の刃物のために開発されたものです。2つの平行した縁がユニバーサルサポートを両側から挟むようになっています。

この治具の構造上、回転している時でさえ、刃物が常に砥石に対して直角になるようになっています。これは大変な利点です。というのは、治具が砥石に対して直角かどうかを心配することなく、刃先がどのように砥石やレザーホイールに接しているかに集中し続けることができるからです。

カービングガウジ

荒研ぎ/刃付け/レザーホイールでの仕上げか、それともレザーホイールでのは磨きのみか?

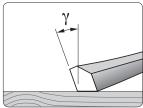
20ページの「カービングガウジとVツールの研磨方法」の章で述べられている通り、刃物を回転砥石で研ぐかそれともすぐにレザーホイールで仕上げるかを決める必要があります。この治具に対応している小さくて傷つきやすい刃物を扱う時、特にこの選択が重要です。3mm程度の小さな刃物であれば、レザーホイールを使って少量の鋼を落とすことができ、回転砥石での研ぎの代用とすることが可能です。

切れ味が落ちて研ぎ直す必要がある刃物に鋭い刃をつけるのに必要な全工程が下記に示されています。新しい刃先形状をつけたい時や刃先角度を変えたい時にもこのやり方は有効です。切れ味は少し落ちているけれど正しい刃先形状と刃先角度の刃物は、砥石で研がずにすぐにレザーホイールで仕上げを行うべきです。(71ページ参照)

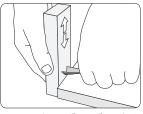
刃先の形作り



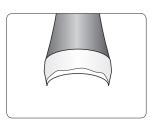
水平方向に置いたユニバーサル サポートの上で砥石の近くに安 定させながら刃先の形作りを行 います。



刃先の平面角度 (γ) は約20度であるべきです。



SP-650ストーングレーダーの細かい面で切れ味の悪い刃を平らにして凹凸がないようにします。

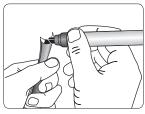


切れ味の悪い刃に光っている線が現れ、これがどこを研ぐべきかを示してくれます。

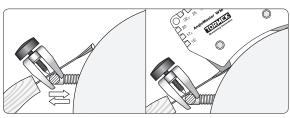
刃先角度

24ページの「カービングガウジとVツールの研磨方法」の章で述べられている通り、カービン グツールにとって刃先角度の選択はとても重要です。現在の刃先角度を再現したいのか、新し い角度の刃をつけたいのかによって、刃先角度の設定方法は異なります。

現在の刃先角度を再現する場合はマーカーメソッド(41ページ参照)を使うべきです。新しい 角度の刃をつけたいなら、目で見て調節するか142ページのアングルマスターを使うことが出 来ます。



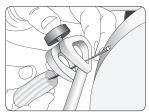
現在の刃先角度を再現する場合、



新しい角度の刃をつけたいなら、目で見て調節するかアングルマスタ マーカーメソッドを使うべきです。 ー (142ページ参照)を使って前もって決められた刃先角度に調節す ることが出来ます。

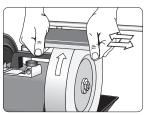
研ぎ

刃物に正しい刃先形状を形作って刃先角度を設定したら、次は研ぎです。20ページで述べて いる光っている線を使った方法を用います。





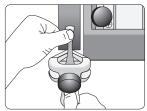
ユニバーサルサポートの上で刃物を回しながら、光っている線が最も 太い所を常に研ぐようにします。どこが研がれているか何度も確認し ます。光っている線が等しく細くなるまで研ぎます。



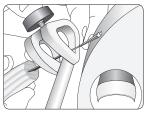
SP-650ストーングレーダーの細 かい面を使って砥石の表面を細 かくします。



研ぎ続けます。1つの場所を研ぎ 過ぎないように何度も確認して ください。



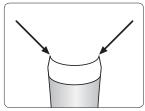
光っている線をよりはっきり確認 できるように、レザーホイールを 使ってフリーハンドでかえりを取 ります。刃物は治具にはめたまま にしておきます。



とても弱い力でもう一度研ぎま す。1つの場所を研ぎ過ぎていな いか何度も確認してください。



ぐのを止めてください。これは刃 先が鋭くなった証です。

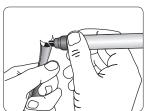


光っている線が消えたらすぐに研 ガウジの側面を研ぐ時は角が丸 まらないように気をつけてくだ さい。

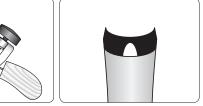
注意かえりが誤解を招き、かえりと光っている線を見間違いかねません。そのため、 仕上げ研ぎの最中何度もかえりを取るべきです。そうすれば、光っている線が徐々に 細くなっていく過程がよく見えます。

レザーホイールでの仕上げ

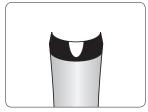
砥石で研いだ時と同じ角度でレザーホイールで仕上げることが重要です。そのためにマーカー メソッドを使ってユニバーサルサポートを慎重に調節します。



マーカーで刃を塗り、刃物を治具に取り付けます。レザーホイールが 刃全体に接するようにユニバーサルサポートを調節します。レザーホ イールを回して確認してください。



設定間違い。レザーホイールが切 刃の付け根にあたっています。ユ ニバーサルサポートがレザーホ イールから離れるように調節して ください。



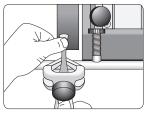
先にあたっています。ユニバーサ 全体にあたっています。 ルサポートがレザーホイールに近 づくように調節してください。



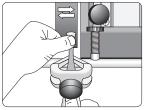
設定間違い。レザーホイールは刃 正しい設定。レザーホイールが刃



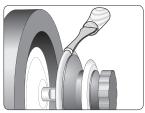
両方のレザーホイールにレザー ホイール用コンパウンドを塗りま す。44ページをご参照ください。



刃先を研いで仕上げます。ユニ バーサルサポートの上で刃物を 回し、刃物の刃先近くに力を加 えます。



治具を左右に動かして、レザーホ イールの幅全体に均等にあたる ようにします。



刃物を治具から外し、プロファイ ルレザーホイールを使ってフリー ハンドで内側を仕上げます。

Vツール



90ページのSVD-186の章でVツール の研ぎ方とレザーホイールでの仕上 げ方が述べられています。SVS-38を使 う時もこの原則は同じです。

短い木工用のみと木彫り用のみ

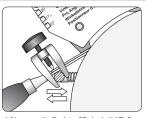
木工用のみは片刃で直刃なため、ガウジやVツールよりはるかに研ぎやすいです。軸に対して 刃全体が直角であることを研ぐ前に確認してください。直角でなければ、回転砥石の側に設置 したユニバーサルサポートの上で刃物を安定させながら、刃先が回転砥石に対して直角にな るように研いでください。

新しい木工用のみを初めて研ぐ時は、裏が平らであることと製造工程でできた溝がないことを 確認してください。必要があれば、砥石の外側 (122ページ参照) を使って凹凸のない平らな状 態にしてからレザーホイールで仕上げます。

刃先角度の設定



現在の刃先角度に設定する場合。 新しい刃先角度に設定する場合。 バーサルサポートを調節します。 マーカーメソッド(41ページ参 照)をお使いください。

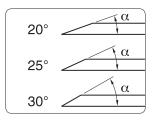


刃全体が砥石に接するようにユニ 目で見て調節するか、ここで示さ れている诵りWM-200アングルマ スターを使ってあらかじめ決めら れている刃先角度に治具を調節 することが出来ます。

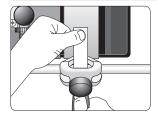
刃先角度

木工用のみは通常25度の刃先角度(α)に研ぎます。柔木に 木工用のみで繊細な仕事を行う必要があるなら、20度に刃 先角度を落とすことが出来ます。

堅木を削ったり木槌を使っ たりする時は、刃先角度を30度かそれ以上に上げなければ なりません。

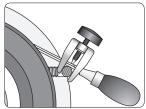


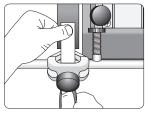
研ぎ



安定して研げるように刃先の近くを親指で押してください。刃先が砥石に正しくあたって回らないように、柄に手を添えることでも安定して研ぐことが出来ます。左右対称の刃になっていることを何度も確認してください。治具を左右に滑らせないでください。砥石の別の場所に移動させる時は、滑らせる代わりに治具を持ち上げるようにしてください。

レザーホイールでの仕上げ





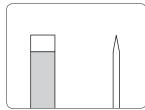


刃物を治具にはめたまま、レザーホイールの所に持っていきます。砥石で研いだ時と同じ角度で仕上げられるようにユニバーサルサポートを調節します。マーカーメソッド(41ページ参照)をお使いください。かえりを取り除き、刃が鏡面仕上げになるまで磨きます。

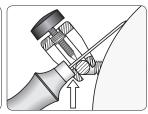
裏をフリーハンドで仕上げます。 刃先を丸めないように気をつけ てください。砥石に対して刃物が タンジェントになるように持って ください。

平の木彫り用のみ

この刃物は両側に左右対称な刃がついています。この治具は刃先角度25度で刃の長さが約60mmのものまで対応しています。(SVS-50のように)治具を逆さまにひっくり返すことが出来ないので、刃物を外して180度回転させてからもう一度治具に取り付ける必要があります。毎回治具を取り付ける時に刃物の柄に治具を接触させておけば、同じ設定で左右対称の刃を得られます。



平の木彫り用のみ



毎回治具を取り付ける時に刃物の柄を治具に接触させます。